

入学式

学長式辞



新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫



人生はやり直しがきかな
いというのは当然のことな
いですが、もし戻ることが
できたらという架空の話だ
としても、強く絶対的な自
信をもつていえるのは、も
のの後半、記者の方が僕自身のこと
を聞いてきたんですね。「人生、
やりなおしがきくとすれば、大学
1年生のころの自分に何をアドバ
イスしたいですか」という質問で
した。

これを聞いてかなり悩んだん
ですが、悩んでいるうちにだんだん
腹が立つてきました。別にその記
者の方を批判するつもりはないんです
が、大きさにいうとそこで語られる世界
観のようなものがなんとなく不快だった
うなことをお話ししたほうがいいのかも
しれません。しかしそういうことを抽象
的に話してもつまらないでしようし、も
う少し違うことをお話ししたいと思いま
す。大学での時間の過ぎし方についてで
す。

先日、ある雑誌のインタビューを受け
ました。最初は大学のカリキュラムのこ
とを話していたのですが、インタビュー

を聞いてきたんですね。「人生、
やりなおしがきくとすれば、大学
1年生のころの自分に何をアドバ
イスしたいですか」という質問で
した。

これを聞いてかなり悩んだん
ですが、悩んでいるうちにだんだん
腹が立つてきました。別にその記
者の方を批判するつもりはないんです
が、大きさにいうとそこで語られる世界
観のようなものがなんとなく不快だった
うなことをお話ししたほうがいいのかも
しれません。しかしそういうことを抽象
的に話してもつまらないでしようし、も
う少し違うことをお話ししたいと思いま
す。大学での時間の過ぎし方についてで
す。

本来ならここで大学とは何かというよ
うなことをお話ししたほうがいいのかも
しれません。しかしそういうことを抽象
的に話してもつまらないでしようし、も
う少し違うことをお話ししたいと思いま
す。大学での時間の過ぎし方についてで
す。

大学はやり直しがきかない4年間

思います。

人生はやり直しがきかな
いというのは当然のことな
いですが、もし戻ることが
できたらという架空の話だ
としても、強く絶対的な自
信をもつていえるのは、も
のの後半、記者の方が僕自身のこと
を聞いてきたんですね。「人生、
やりなおしがきくとすれば、大学
1年生のころの自分に何をアドバ
イスしたいですか」という質問で
した。

これを聞いてかなり悩んだん
ですが、悩んでいるうちにだんだん
腹が立つてきました。別にその記
者の方を批判するつもりはないんです
が、大きさにいうとそこで語られる世界
観のようなものがなんとなく不快だった
うなことをお話ししたほうがいいのかも
しれません。しかしそういうことを抽象
的に話してもつまらないでしようし、も
う少し違うことをお話ししたいと思いま
す。大学での時間の過ぎし方についてで
す。

そこで考えたいのは時間とはどういう
ものであって、それどうつづきあうべき
かということです。やがていつに思い
るということは、時間とは何かを考え
て、と。その能力のことをマキヤベリは
「マキヤベリ」と呼んだですが、このフォ
ルトウナとマキヤベリという単語が今で
は日本語で「幸運」と「美德」と訳され
るということは、時間とは何かを考え
とき、とても大事な

ことです。彼には前髪しかないんです。これは
どういうことかというと「カイロスが近
づいてきたときに前髪をつかんで捕まえ
る。去っていくカイロスの後ろ頭には髪
の毛がないから捕まえられないぞ」とい
うことです。

ギリシャ神話のカイロスという神様で
す。彼には前髪しかないんです。これは
どういうことかというと「カイロスが近
づいてきたときに前髪をつかんで捕まえ
る。去っていくカイロスの後ろ頭には髪
の毛がないから捕まえられないぞ」とい
うことです。

は『君主論』のなかでローマ神話に出で
くるフォルトウナという女神を使って、
もう少し踏み込んで説明しています。彼
によると時間の流れはフォルトウナのよ
うに気まぐれだけど、だからこそ、その
気まぐれさを理解して対応する能力を持
て、と。その能力のことをマキヤベリは
「マキヤベリ」と呼んだですが、このフォ
ルトウナとマキヤベリという単語が今で
は日本語で「幸運」と「美德」と訳され
るということは、時間とは何かを考え
とき、とても大事な

ことです。つまり「人生、やり直しがき
くとすれば」という前提そのものが許せ
なかつたんでしょう。それでどうもそう
いう考え方は特に大学という空間とは馴
染（なじ）まないはずだと気づきました
おそらくこの言葉のもとになったのは

the forelock というものがあります。時
間は前髪で捕まえる、という意味です
ね。

何かよくないことが結果的におこった
としても「運がありませんでした」と開
き直るのではなく「社会の変化を理解し
てそれに対応する能力がありませんでし
た」と自分を恥じ、とマキヤベリは言

ます。

新潟国際情報大学 学報 国際・情報 令和7年4月発行 2025年度 No.1

いたかったんだじょう。これは何が起つても他人のせいにはできない、といふことがあります。

せんが、姿勢のようなものもあるので、ある決意さえあればそれほど難しくはないような気もします。それにそういうことがあります。

Take time by the forelock

ヴィルトゥを身に付けよう

大学の4年間をやりなおすことはできないからこそ、そのあいだにこういう能力としてのヴィルトゥを身につけてください。むずかしそうに感じるかもしれません。

う姿勢をもつていたほうが楽しい時間にもなるはずです。

それでは4年間の大学生活、楽しんでもください。



新入生代表
国際文化学科 小林 紗也

本日は私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、数々の激励のお言葉や、両親をはじめ私たちを

は、言語力だけでなく、互いを理解し合うことが必要となります。

また、異文化について知るためには、自國の文化についてもよく知る必要があると思います。自分たちの文化をしっかりと

暖かな春の訪れとともに、私たちは新潟国際情報大学の入学の日を迎えることができました。

支えてくださった方々に、心より御礼申し上げます。

現、グローバル化が進み、世界中の人々とつながる機会が増えています。円滑なコミュニケーションを図るために

新たな出会いを求め成長目指す

4年間を有意義なものにするために、常に向上心

りと理解できていれば、異文化を尊重しながら、より深く理解することができるはずです。

私たちはこれから過ごしていく時間の中で、自分の興味・関心を追求し、たくましく生き抜くことをめざします。



歓迎のことば



在学生代表 学友会長
国際文化学科 中原 佑那

新入生の皆さん、この度はご入学、誠におめでとうございました。そしてここまで支えてこられたご家族の皆さんに、心よりお祝い申し上げます。在学生を代表し、皆さんに歓迎の意を表したいと思います。

さて、新入生の皆さん、今ど

他者を知

他者を知り学びを深め行動しよう

ーションを取れる環境にあるからこそ、得られるものがあると思います。そのためには、積極的に他者を知ろうとする姿勢や、自分の考えを持ち、行動す

入学できて嬉しい、大学生活が楽しみ、友達ができるか不安、講義についていけるか心配、いろいろあると思います。もしかすると、本当はこの大学に来たら、つナシやなかつて、二つ並

のようなお気持ちでしようか。

ることが大切です。

今こんなことを言われても、

いかもしれません。しかし、大学生活を送る中で、きっと分かれる日が来るはずです。この大学の環境を最大限、自らの学びと成長に活かしていくください。

い。
私を含めて、多くの先輩たち

が皆さんと会えるのを心待ちにしていました。これから、この大学の学生として、共に大学を

盛り上げていけたら嬉しいです。ぜひ、

動しよう

にも参加してみてください。

この大学4年間が皆さんにとって有意義なものとなることを

願い、歓迎の言葉とさせていた
だきます。

分かち合いました。

記念事業一出席

（2018年度卒業生）から次
のメッセージが寄せられまし
た。

■内藤愛香さんからのメッセージ

FT大学の認定、おめでとうございます。NHS FTは、

2017年度に国際学部の3年
山田ゼミ生により設立され、国

フェアトレード大学認定記念事業



初代副代表からもお祝いメッセージ

リードの実践を学びながらフェアードの普及活動を行つてきました。当時は、紅翔祭での物品販売などを通じて普及活動をしていましたが、今日ではサステナビリティ（持続可能性）の分野は私たちの生活に不可欠なものとなっています。

巻高校と連携協定

した。

本学と県立巻高等学校は、
3月14日に高校と大学が連携

化することにより、相互の教育活動の交流を通じて連携を強化する目的で、「高大連携協定」を締結しました。

さらに魅力ある大学教育および高等学校教育を実現していくことです。

からは越智敏夫学長、浅野一仁事務局長、巻高校からは吉川保校長（当時）、楫貴志教頭が出席。越智学長と吉川校長が協定書に署名したあと、それぞれ連携活動への期待を述べま

国際化・情報化見据えた授業展開 教職員の合同研修・研究も

教職員の連携活動としては、進路指導、入学者選抜の改善、さらに教育・研究についての情報交換や交流等の合同研修を行います。また、連携活動を協議する場を定期的に設け、常に見直しを行っていきます。

両校にとつては初めての大連携協定ですが、相互の協力のもとで地域密着型の新しい連携活動を実践し、地域の発展につながる成果を上げることを目指します。

(企画推進課)

2026年3月卒業予定者を対象とした学内合同企業説明会が3月6、7日に、本校みすき野キャンパス体育館で開催され、2日間141の企業・団体が参加しました。

学内合同企業説明会

澤口ゼミ生3人に認定証授与

湿地環境保全に期待高まる
会場を盛り上げました。
新潟市として初の里潟ガイドの誕生で、その中に本学の学生3人が含まれるというのはたいへんな快挙です。
この活動していく意味は、その意味で、地都市Nな存在と

ラムサール条約湿地都市認証は、国際湿地都市としてのブランド化、湿地の保全と賢明な利用の推進を図ることを目的とした制度です。里潟

参加企業の中には、実際に働く本学卒業生の姿を紹介する企業もあり、学生たちは親近感を持ちながら話を聞いていました。普段は得られない先輩たちの生の声が聞ける、有意義な時間となりました。

参加した学生からは、「選考を受けてみたい企業に出会うことができ

は、年度末のお忙しい中、本学の学生のために貴重な時間をいただき、心より御礼申し上げます。

高まる 案内役ではなく、潟の
インター・プリターとしての活動を通じて、この目的を達成していくことが期待されています。その意味では、里潟ガイドは国際的な存在と言つても過言ではあります。赤井田、河内、古川さんの今後の活躍を大いに期待したいと思います。(国際文化学科教授 澤口晋一)

2025年2月9日に行われた新潟市主催のシンポジウム「『国際湿地都市N—I—G—A—T—A』のこれからを『デザイン』する」において、澤口ゼミ4年の赤井田美月さん、河内天良さん、古川悠さんが、中原八一新潟市長から「新潟市里潟ガイド」の認定正を受取さ

が国内初の湿地都市として国際認証されたことを受けて組織されたもので、8月4日に行われた最初の育成講座を皮切りに全5回にわたる講座をすべて受講し、ガイドとして必要な知識と技量を身に着けた16人が認定されました。認定書の授与式後に赤井田さんと古川さんを中心にガイドの方々による寸劇も披露され、

育成講座の－ヨマ

5カ国5大学へ28人が参加

アメリカ

私は昨年8月下旬から12月中旬までの約4か月間、アメリカのセントラル・ミズーリ大学に留学しました。

私が留学した目的は、英語での積極的なコミュニケーション能力を身につけることと、異文化に触れて視野を広げることでした。私は人と話すことが好きですが、言語が異なる海外の人と話すとなると、緊張や不安で自信をもつて話せなくなることがあります。そこで、留学中はこの課題を克服するため、大学のイベントやパーティーに積極的に参加し、施設について現地でできた友だちと英語でたくさん会話をするようになりました。



ISO(国際学生協会)のホームカミングパレード

恒例の「夏期セミナー・派遣留学」が令和6年度も計画通り実施され、5カ国5大学へ合計28人が派遣されました。昨年8月4日出発のカナダコースから、3月1日に帰国した韓国コースまで、最長5ヶ月にわたる貴重な留学体験を寄せてもらいました。

交流を通じて視野広がる

国際文化学科 3年
で調べたりして、できるだけ早く覚えて会話の中で使うように心が

國際文化學科 3 年

武藤奈々花

話すことに対する緊張が減つただけで、

皆さまの支えがあったからこそ、充実した留学生生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

カナダ

私はカナダのアルバータ大学に、夏休みの二ヶ月間留学してきました。私は小さいころから英語が大の苦手で、大学生になるまで可能な限り英語の勉強を避けてきたが、ようやく学校生活を送つてきました。しかし、アルバイトで外国人と接する機会が増え、全く違う世界や環境を見てみたいと思うようになりました。その思いから、今回の留学に挑戦しました。

カナダではホームステイをし、ホストファミリーと過ごしました。英語がうま

一緒に学びました。教科書を使わず、グリープでディスカッションをしながら学ぶスタイルで、正しい文法よりも「まずは自分の言葉で伝えること」が大切にされました。最初は英語で話すことに不安に感じる人が多いと思います。私もその一人でしたが、シンプルな単語やフレーズを組み合わせるだけでも、意外と通じることが分かり、あまり難しく考えず、に話してみようという気持ちになりまし



ホストファミリーとトリックアート体験 (左端が増井さん)

えたり、ゆっくり話してくれたりと、さまざまな方法で寄り添ってくれました。一緒に犬の散歩をしたり、映画を見たりしたことがとても良い思い出です。またカナダは多民族国家なので、英語のアクセントが人によつて違い、聞き取る

大切なのは伝える姿勢

伝える姿勢

ラトビア

最後に支援をしてくださった先生、学務課の方々、本当にありがとうございました。また一緒に留学に参加したメンバーにも感謝を伝えたいです。慣れない環境の中、最後まで乗り越えることができたのは皆のおかげだと思います。とても楽しく、かけがえのない有意義な経験でした。

私は8月末から約4ヶ月間、ロシア語が公用語とされているラトビアにあるダウガフピルス大学に留学しました。短い時間でしたが、言語や文化を学ぶことができなく、人として成長することができた良い機会だつたと思います。日本ではロシア語のみで進められる授業を受けたことがなかったので、最初は特にリスニングに苦労し、慣れるまで少し時間がかかりました。それでも毎日授業の予習復習を繰り返すことで、徐々に知つていい単語や表現が増えていき、授業についていくことができるようになりました。会話を楽しめるようになりました。また、アメリカ、トルコ、スウェーデンなど様々な国から来たロシア語を学んでいる学生たちや、同じ寮で暮らす学生

しかし、初めの頃は自分が伝えたいことを上手く伝えられずに苦労した日もありました。知らない単語や文法が出てきたときは、ノートに書き留めたり、携帯

また、休暇が何度かあつたので、様々
ました。私の英語が拙くても最後まで話
を聞いてくれた友だちには、とても感謝
しています。

留学・夏期セミナー

異文化との出会いを求めて



終業式の日に先生とクラスの皆さん
(右から2番目が加藤さん)



ダウガフピルスの広場(左端が藤田さん)

中国

私は昨年9月から今年1月までの4ヶ月間、中国・上海にある華東師範大学に留学してきました。中国語コースは1人で参加しました。華東師範大学での留学プログラムには様々な国からたくさんの方々が参加しています。クラスの中にはロシア、韓国、ベトナム、ウズベキ

私は昨年9月から今年1月までの4ヶ月間、中国・上海にある華東師範大学に留学してきました。最初は不安も多かったのですが、韓国語の学習だけでなく様々な国的学生と交流し、たくさんの貴重な経験をすることができました。

慶熙大学の国際教育院では毎日韓国語の授業を受けました。最初は苦労するところもありましたが、先生もゆ

つくりと話してくれて、クラスメイトと助け合いながら意思疎通をし、勉強を続けるうちに少しずつ会話がスムーズにできるようになります。韓国語に慣れてくると会話をするのも楽しくなりました。日常生活でも韓国語を使用する場面が多く自然と語学力が向上しました。

語学が結ぶ新たな出会い

国際文化学科3年 小林 結里

ついで理解を深める」

とができました。そして、現地で実際に生活し韓国人と関わることで、自身の語学力の向上を感じることができました。慶熙大学で学んだこと

私たちには無事に留学することができます。この留学経験

を活かし、今

な国のお菓子をシェアしたり、文化を聞いたりしたことがとても印象に残っています。また、学校では様々な行事がありました。様々な国の民族衣装やダンススケーティング、物を売っている屋

した。南京路では上海の特産品や海外の有名ブランドのお店、日本の無印良品などがあり、とてもグローバルな都市だなと実感しました。また、観光地は外国人が多いイメージでしたが、意外にも中国現地の人が多くだったので驚きました。4ヶ月という短い間でしたが、中国や様々な国の人たちと交流し



秋学期クラスメイトたち
(上段右から2番目が小林さん)

たちと交流し、ロシアやラトビア以外の国を文化を学ぶことができました。生まれ育つた環境の異なる相手の考え方や価値観を受け入れ、尊重するということは、どういうことなのか、考えさせられました。

予習復習で会話楽しむ

大切さを改めて
感じるととも

国際文化学科3年 藤田 友鈴

藤田 友鈴

に、将来を考える上で視野が広がりました。これからはこの貴重な経験を活かして人と関わり、言語力を高めていきたいと思います。

最後に、今回の留学に携わっていただいた先生方、学務課の方々、本当にありがとうございました。

国際色あふれる留学生

国際文化学科3年 加藤 愛莉

から留学していた人が多く、自分がうまくこなせるのか不安でしたが、皆がとてもフレンドリーで楽しいクラスでした。ハロウィンやクリスマスなどにいろん

な台などがあり、多様な文化を学ぶことができました。

上海文化考察レポートを書くために上

に、留学に携わってくださった先生方、学務課の方々本当にありがとうございました。

新潟国際情報大学 学報 国際・情報 令和7年4月発行 2025年度 No.1

卒業式

学長式辞

新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

が後悔の度合いを強くしている可能性はあると思います。

でも大学を卒業するときに感じるこの後悔という観念はおそらく世界中の大学を卒業する人たちに共通する感覚だと思います。だから安心していいということではないのですが、でもこの後悔ということについて考えてみたいんですね。

「卒業、おめでとうございます。でも皆さんは正確にはまだ10日間ほどは大学生活が残っています。その期間はまだ大学生ではあるわけですけど、おそらく皆さんはすでに後悔し始めているはずです。「もっと勉強しておけばよかった」と思つてないですか。

4年間なんてあつという間です。また皆さんの4年間はコロナ禍とも重なったので、特に1、2年生のことは何が何やらわからないまま時間が過ぎて行つたと思います。ですから他の年度の卒業生よりも大学の4年間をいつも短く感じたかもしれません。そのこと

ん。

私たちがつくっている社会は問題が多く、複雑にでています。問題が多いというのは、本来のあるべき姿と現実が

ずれているということでもあります。たとえば人間は生きるために働いていはずなのに、なぜそこで人間は不幸にならないといけないのか。カール・マルクスはこれに対し独特な答えを用意しましたが、これは実感として誰でももつ疑問です。

またそうした難しい問題を考えるにはそれなりの方法が必要になります。逆転してはいる社会だからこそ、それを根本的に考える方法はそんなに簡単なものにはなりません。難しい問題ですが、大学というものはそういう根本的な方法を教員と学生が一緒に考える場所のはずです。ですから皆さんが「もっと勉強しとけばよかつた」と後悔していると感じているの

です。動物のように反射的に動くようなクズみたいな人たちからは嫌われても何の問題もありません。孤高の存在として生きてください。

そこさえわかつていればあとは楽です。人に何を言われても自分は複雑な社会について考える方法を探求しているん

ないはずです。問題は複雑で解答も簡単には見つからないからです。したがって

そういう人々はさまざまな問題に対し反射的に反応するのではなく、ワニクツ

ションにおいてから考えるようになります。それは他人から見たら、のろまな人間に見えるかもしれません。あるいはただの理屈っぽい嫌な人間に見えるかもしれません。

でもそれは大事なことです。大学を出した以上、のろまな理屈っぽい人間として生きて行くことが運命づけられているのです。

動物のように反射的に動くようなクズみたいな人たちからは嫌われても何の問題もありません。孤高の存在として生きてください。

そこさえわかつていればあとは楽です。人に何を言われても自分は複雑な社会について考える方法を探求しているん

は、その特性を考へると、その社会について考える方法のようなものかもしませ

「後悔」の感覚を持続せよ！

とも重なったので、特に1、2年生のことは何が何やらわからないまま時間が過ぎて行つたと思います。ですから他の年度の卒業生よりも大学の4年間をいつも短く感じたかもしれません。そのこと

は、その方法に触れた者は、今後、社会について考えるときに簡単には答えを出せ

る。されば、それはその根本的な方法に触れたことの証明のようなものだと思いま

す。その方法に触れた者は、今後、社会について考えるときに簡単には答えを出せ



だと思えば楽です。もう少し正確にいうと、その方法を大学で学んでいたけれど、まだまだ途中の段階で、理解も不十分だった、と。これが皆さんのが今もつているであろう後悔の意味です。ですから、この後悔の感覚さえ持続で

ければ、あとは生きているだけで大丈夫です。とにかく死ななければ楽しく生きていけます。生きているだけで十分です。少々嫌なことがあるても、生きていれば何かいいこともあるし、楽しいことがあります。

卒業後もたまにはその生きている顔を大学に見せに来てください。そうしてくれば、僕らも喜びます。その点についてはここにいる全教職員が同意するはずです。本日は「卒業、おめでとう」下さいました。

祝　辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 佐々木 辰弥

卒業生の皆さん、そしてご参列いただいた家族の皆様、誠におめでとうございます。本学の運営母体であります学校法人新潟平成学院の佐々木と申します。

今日ここに、皆さんのお晴れがましい表情を見ていると、これまでの楽しかったこと、苦しかったこと、すべてが今日の、この輝かしい日に繋がっているのだと心から嬉しく思います。

今日は、中原新潟市長さん、本法人の役員、父母会、同窓会、および町内会役員の方々はじめ就職等でお世話になりました。大変ありがとうございました。

いたしました。大変ありがとうございました。

大学4年間は人生の礎

当時は、皆さんも耳にしたことがあるかと思いますが、阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件など、日本社会を揺るがす出来事が相次いだ時代でした。最近の十数年を振り返つても、東日本大震災や豪雨災害、コロナ禍、能登半島地震は皆さ

いました。本学は、創設者である小沢辰男先生の「郷土の発展は人づくりから」という想いの下、新潟市はじめ新潟県、自治体、企業・団体の多くから補助金や寄付金をいただき、31年前平成6年に開学しました。

からは、何が正しくて、何が間違っているのか、容易に判断できない時代になりました。しかし、どんな時代にあっても、ルールと秩序の下、自身の頭で考え、判断することこそが羅針盤となり、分裂・分断を抑え、未来を切り拓く力となるのです。

これから新たな道を歩まれる皆さんにとって卒業というのは一つの到達点であり、同時に目的に向けたスタートでもあります。新たな社会は、皆さんが学生生活で感じていたよりも厳しいものかもしれません。理不尽であったり、不平等、

不公平なことも多いことでしょう。福沢諭吉は「学問ノススメ」の中で、「自由は不自由の中にあり」と書いています。自由には、責任と義務が伴います。社会で生きるということは、様々な制約や困難に直面するということです。皆さんができる限りのスピードは加速しています。情報が溢れています。

理性と知性で未来を切り拓け！

に努めてまいります。どうぞ皆さん、

卒業後も折に触れ、故郷新潟国際情報大学を訪ねてください。

最後になりますが、皆さんのがこの大学で過ごした時間が、これから的人生の礎となることを願い、併せて健康で希望に満ちた「感性豊かな」人生を歩まれるよう心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉と致します。



